

第三章活用事例

中学校版「心みつめて」 p.140
「心の贈り物」に感謝して p.141

中心資料

中学校道徳読み物資料集 平成二十四年三月
文部科学省 「背番号10」

【主題名】 感謝する心

2-⑥「多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。」

【ねらい】 周りの人々の善意や支えに感謝し、それにこたえていくこととする態度を育てる。

《ねらいとする道徳的価値》について《中学生の時期は、自分という存在が多くの人によって支えられていることに気付けるようになります。一方で、恥ずかしさなどから感謝の気持ちを相手に素直に伝えられない場面も見られます。感謝の気持ちを素直に表現し、それが相手の心に届くことによって温かな人間関係が生まれることに気付かせ、善意や支えにこたえていくこととする態度を育てることが大切です。》



「高校野球の強豪校と呼ばれるチームは、部員数が百人を超えることもあります。その内、ベンチ入りできる人数は何人か知っていますか。」

- 資料に描かれる部活動の世界に関心をもたせ、資料への導入を図る。
- 甲子園球場で行われる、選抜高等学校野球大会と全国高等学校野球選手権大会の全国大会では、ベンチに入れる人数は十八名以内となっていることを伝える。

○教師が「背番号10」を範読する。



『キャプテンなんかやってられんわ』と言ったとき、『僕』はどのような気持ちだっただろうか。」

○「僕」が、相手のことを思いやることなく、自分の思いだけを周囲にぶつけていることに気付かせる。



「骨折した夜に父に一喝されてから、次の日を迎えるまでに、『僕』はどのようなことを考えていたのだろうか。」

○これまで見せたことがないほどの激しい感情を父が見せたことに着目させ、その父の心情を理解しようとしていく中で「僕」が自分自身を見つめ直していく過程を捉えさせる。



『僕』が監督の差し出すゼッケンを受け取り一礼をしたあとの、二回目の拍手には、みんなのどのような思いが込められていたのだろうか。」

○チームメートの「僕」に対する心情の変化に着目させる。



中心発問

「みんなに深々と頭を下げたとき、『僕』は心の中でのようなことを考えていたのだろうか。」

○監督やチームメートなど、自分を支えてくれた周囲の存在に感謝していることに気付かせる。

○チームメートの拍手に対して「僕」が深々と頭を下げたことで、互いに認め合い感謝し合えたことを捉えさせる。

《評価》 自分が様々な人に支えられていることを実感し、深く感謝している「僕」の心情に気付けたか。

○「心みつめて」P.140～P.141「心の贈り物に感謝して」を活用し、自分を

支えてくれている存在への感謝の気持ちを確かめさせる。

○『心の贈り物』を受け取ったとき、どうしてる?」を読ませてから、P.141に記入をさせる。

板書例

背番号10

【資料の特徴】 中心資料の「背番号10」は、チームをまとめようと焦るあまり相手の気持ちを考えられなくなってしまった野球部のキャプテンが、ケガや父の言葉をきっかけに大きく成長していく姿を描いた読み物です。「心の贈り物」に感謝しては、自分がたくさんの人に助けられ励まされていることに気付いたり、人の善意にどのようにこたえるかを考えたりできるページになっています。

「キャプテンなんかやってられんわ」と言ったとき、『僕』はどのような気持ちだっただろうか。

○自分はこんなにやっているのに、どうしてみんなはちゃんとできないのだろうか。

○どうしてみんなは自分のことを分かってくれないのだろうか。

○なぜみんなは、自分のように行動できないのだろうか。

骨折した夜に父に一喝されてから、次の日を迎えるまでに、『僕』はどのようなことを考えていたのだろうか。

○野球への強い思いがあったから、父は今の学校への入学を認めてくれたのだ。

○骨折して試合に出られなくなったからといって、簡単に野球部をやめるなどと言ってはいけないのだ。

○キャプテンとして、自分にできることは何だろう。

○自分の分まで、みんなにがんばってもらえるように、自分にできることをやってみよう。

「僕」が監督が差し出すゼッケンを受け取り一礼をしたあとの、二回目の拍手には、みんなのどのような思いが込められていたのだろうか。

○チームのために、一生けん命に尽くしてくれてありがとう。

○これからもキャプテンとして信頼しているぞ。

○一緒にたたかって、みんなが甲子園に行こう。

○みんなに深々と頭を下げたとき、『僕』は心の中でのようなことを考えていたのだろうか。

○試合に出られない自分を認めてくれて、ありがとう。

○みんなと一緒に野球をやってくられてよかった。

○自分はこのチームメートに支えられてきたのだ。

○家族、チームメート、監督、みんなのおかげで自分はこれからがんばれる。ありがとう。

《評価》 周りの人々の善意や支えに感謝し、それにこたえていくこととする態度を育てることができたか。

導入

展開

終末